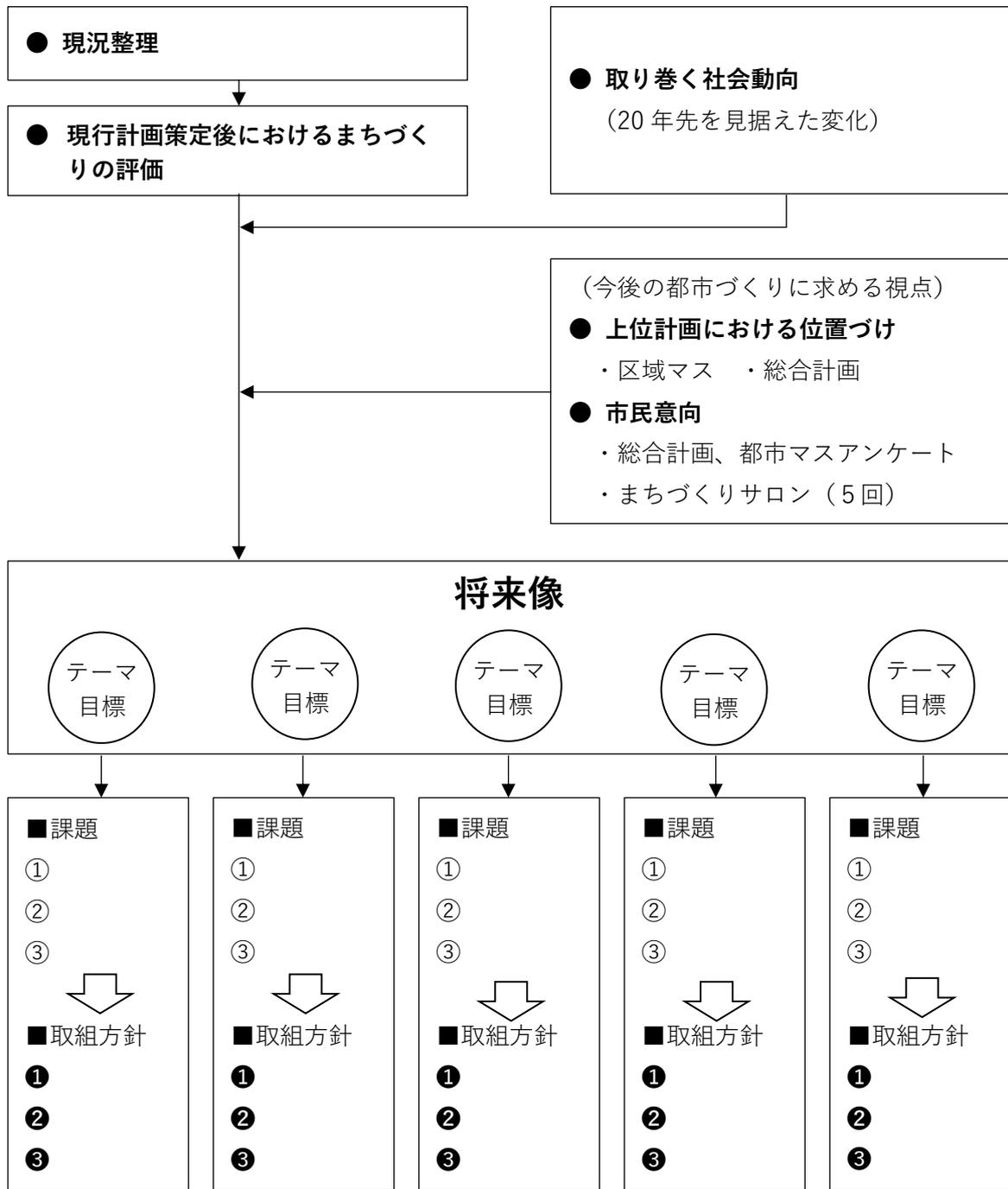


資料 2 全体構想における将来像とその実現に向けたまちづくりのテーマ

<全体構想の体系>



※地域別構想では、地域ごとの現状や今後の都市づくりに求める視点を整理した上で、地域別のまちづくりの方針を設定し、上記の全体構想におけるまちづくりのテーマに沿って取組内容を整理する。

1. 現況整理を踏まえた現行計画策定後におけるまちづくりの評価

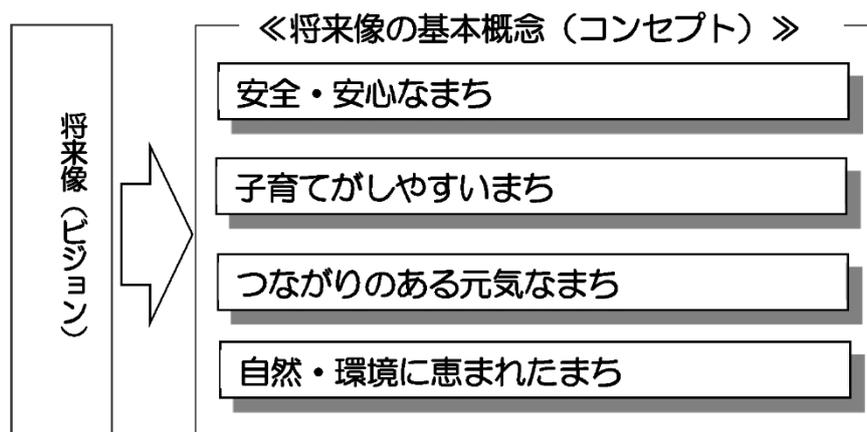
以下の現況整理及び現行計画の「施策の進捗状況」を踏まえ、現行計画における4つの基本概念（コンセプト）に対する取組の評価を行った。

<現況整理の項目>

項目	整理の内容
人口・世帯数	人口・世帯数の推移／年齢別人口動向／年齢別人口割合の比較／人口の地区別状況／人口動態／人口流動／将来人口の見通し
土地利用	人口集中地区の推移／市街化区域・市街化調整区域面積・人口の推移／用途地域指定状況の推移／土地利用現況の推移／市街化区域における農地・未利用地の状況／農地転用状況／工場跡地転用
交通体系	鉄道・バスの利用者状況／公共交通／シェアサイクル／代表交通手段
産業動向	産業大分類別就業人口の推移／農業／工業／商業／各種都市機能の分布
市街化動向	土地区画整理事業／市街地開発事業
都市基盤整備	都市公園等の状況／公共下水道
防災	洪水浸水／内水浸水／土砂災害／地震／液状化
財政	財政力指数／歳入・歳出／公共施設の更新・改修費の試算
市民意識調査	市民意識調査／青少年アンケート

<現行計画における4つの基本概念（コンセプト）に対する評価>

現行計画の以下の4つの基本概念（コンセプト）における「都市マスで取組むこと」に対する評価を行った。



① 基本概念「安全・安心なまち」に対する評価

現行計画の基本概念に対して「都市マスで取り組むこと」
<p><①-1 交通安全> 誰もが安全に安心してまちを歩くことができるように、段差の少ない歩道や自転車通行帯の整備、生活道路などにおける交通安全の確保に努める。</p> <p><①-2 防災> 地震や集中豪雨などにより被害を軽減するため、避難路や緊急輸送路となる幹線道路の整備、雨水の排水改善や流出抑制など、災害に強いまちづくりを推進する。</p> <p><①-3 インフラの老朽化対策> 老朽化が進むインフラの安全性を確保するため、道路や橋梁などの長寿命化対策や水道施設の更新に取り組む。</p>

「都市マスで取り組むこと」に関連する評価事項（○：プラス評価の事項、▲：今後留意すべき事項）
<p><①-1 交通安全> ○歩道整備は進捗しており、整備延長が伸びている ○ゾーン30の設置など、交通安全に係る事業の推進 ▲交通事故発生件数は減少傾向にある一方、歩行者・自転車事故は横ばい</p> <p><①-2 防災> ○防災・消防に関する取組について「重要である」と回答する市民の割合が増加傾向 ○立地適正化計画や地域防災計画が策定され、災害リスクや災害が発生する際の避難行動について明示している ○避難路や緊急輸送路となる幹線道路の整備が進められている ▲現行計画策定(H17.3)後、台風や集中豪雨により50個以上の被災歴は6件ある ▲災害時に危険性が懸念される空家率はおおむね横ばいで推移しているが、その内訳で「その他の住宅」が増加傾向 ○空き家相談対応累計件数は継続増加、空き家に対する関心が高まり</p> <p><①-3 インフラの老朽化対策> ○道路等の施設の維持管理や民間との協働により道路の維持管理は実施されている ○公共施設の耐震化事業は進捗しており、耐震化率が伸びている ▲歳出のうち、民生費に充てられる割合は増加傾向にある一方、土木費に充てられる割合は減少傾向 ▲公共施設の老朽化につれ、今後施設の更新・改修費等は拡大見込み</p>

評価のまとめ
<p><①-1 交通安全> 歩道や自転車通行空間の整備、生活道路における交通安全対策の実施によって、交通事故発生件数は減少傾向にある。一方で歩行者・自転車事故は横ばい傾向であり、計画的な対策の推進により誰もが安全に安心して歩くことができる環境整備が求められている。</p> <p><①-2 防災> 避難路や緊急輸送路となる幹線道路の整備など災害に強いまちづくりは推進しているものの、近年の自然災害の頻発化・激甚化に対応した防災対策の強化が求められている。また、空き家が増加傾向にあり、防災の観点から空き家の解消に向けた対策が求められている。</p> <p><①-3 インフラの老朽化対策> 定期的な道路や橋梁のメンテナンスや、水道施設の耐震化や老朽管の更新、日常の維持管理として市民・企業・行政の協働により快適な道路環境づくりを行っている。一方で、市内の公共施設の多くが今後更新時期を迎えることとなり、限られたお金のなかで、市民が安全安心に、使い勝手のよい施設の確保に向けたマネジメントが求められている。</p>

② 基本概念「子育てがしやすいまち」に対する評価

現行計画の基本概念に対して「都市マスで取り組むこと」
<p><②-1 子育て環境> 子どもと家族が暮らしやすい生活環境づくりのため、子どもたちの交流の場となる公園の整備や遊具の安全対策、学校と連携した通学路の安全対策や、子どもや保護者の目線に立った歩行空間の整備を推進する。</p> <p><②-2 医療や福祉の充実> 安心して健康な生活が営めるように、医療や福祉の充実への対応に取り組む。</p> <p><②-3 良好な住環境の形成> 地域住民の提案による地区計画や建築協定などまちづくりのルールを活用による良好な住環境の形成に取り組む。</p>

「都市マスで取り組むこと」に関連する評価事項（○：プラス評価の事項、▲：今後留意すべき事項）
<p><②-1 子育て環境> ○保育園は3倍増加とともに、受入人数も大幅に増加、待機児童数はピーク値の2割以下まで激減 ○市内公園面積は増加傾向にある一方、一人当たりの公園面積は横ばい ○防犯機能の向上に向けた対策を取り組んでおり、刑法犯罪認知件数は策定時の3割程度まで減少 ○市全般の取組に対して、「子育て支援・青少年育成」は重要度と満足度を共に高く評価</p> <p><②-2 医療や福祉の充実> ○市全般の取組に対して、「高齢者支援」「保健・医療」は重要度と満足度を共に高く評価 ▲市全般の取組について、「障害のある人への支援」に対する評価は重要度が高い一方、満足度が低い ○老人福祉施設は5倍程度、障害福祉施設は3倍以上増加、身近に福祉サービスを受ける機会は増加。一方で市街化調整区域への立地も見られる ▲65歳以上人口は2倍以上と急増するほか、65歳以上の要介護（要支援）認定者は継続増加、20年間で5倍以上と激増</p> <p><②-3 良好な住環境の形成> ○住みよさランキングは300位程度上昇 ○市全般の取組に対して、「生活」は重要度と満足度を共に高く評価 ○朝霞市に「住み続けたい」と思う市民の割合は増加 ○市内緑地の確保や住環境の向上に向けた各種都市計画制度の活用を推進 ○良好な住環境の形成に向けた建築協定の締結累計件数は横ばいしており、地区計画の累計策定地区数は増加傾向</p>

評価のまとめ
<p><②-1 子育て環境> 保育園等の子育て支援施設の充実により、待機児童数を大きく抑えることができたようになったほか、市内の公園は増加し続けており、子どもたちの交流の場の整備が進んでいる。さらに、まちの防犯機能の向上に関する対策に取り組むことにより、まちの安全性が高まりつつある。 市民の子育て環境に対する取組の重要度は高く、今後も継続的に取り組んでいくことが求められている。</p> <p><②-2 医療や福祉の充実> 老人福祉施設や障害福祉施設等の福祉施設の充実により、身近に福祉サービスを受ける機会は増加している。一方で、市内高齢者人口は大幅に増加しているとともに、さらに65歳以上の要介護（要支援）認定者も急増しており、今後も医療や福祉の充実を図っていくとともに、世代間のつながりを育むことを意識した施設配置が求められている。</p> <p><②-3 良好な住環境の形成> 地域と連携しつつ、まちづくりのルール活用により、緑豊かなまちづくりや良好な住環境の形成が継続的に取り組まれ、まち全体の住みやすさが向上しているとともに、本市に「住み続けたい」と思う市民の割合も増えている。 市民の生活に対する取組の重要度は高く、今後も継続的に取り組んでいくことが求められている。</p>

③ 基本概念「つながりのある元気なまち」に対する評価

現行計画の基本概念に対して「都市マスで取組むこと」
<p><③-1 公共交通> 高齢者や障害のある人など誰もが外出しやすいように、公共交通空白地区における市内循環バス（コミュニティバス）の運行や路線バスとの連携により公共交通ネットワークの充実に取り組む。</p> <p><③-2 にぎわい・活力> また、鉄道駅周辺や広域幹線道路沿い、大規模跡地では、地域の雇用と活力を支える土地利用の誘導や賑わい空間の創出や、シティ・セールス朝霞ブランドに認定した地域資源を広くPRすることにより、市内外の人々が訪れたいと感じる魅力あるまちづくりを進める。</p>

「都市マスで取組むこと」に関連する評価事項（○：プラス評価の事項、▲：今後留意すべき事項）
<p><③-1 公共交通> ○バスロケーションシステムの導入や市内循環バスの運行など公共交通利便性の向上に向けた取り組みを推進している ○公共交通の補完として、シェアサイクルを導入し、その需要は拡大傾向</p> <p><③-2 にぎわい・活力> ○官民連携まちなか再生推進事業やエリアビジョンの策定など駅周辺の賑わい創出に向けた取組を推進している ○基地跡地の利活用に向けた検討及び事業の推進 ○シティ・セールス朝霞ブランドの認定に向けた資源発掘や創出に取り組む ▲昼夜間人口比率は県平均水準以下で横ばい推移 ▲小売吸引力指数は周辺都市で最下位 ▲商業は卸売業、小売業共に事業所は減少、従業者数は卸売業が増加、小売業が減少 ▲工業は事業所と従業者数は共に減少傾向 ○産業活性化（魅力ある商業機能の形成、産業誘致の推進等）の取組について「重要である」と回答する市民の割合が増加傾向、市民の産業活性化に対する需要が高まり</p> <p><③-3 地域コミュニティ> ○市内 NPO 法人が6倍以上と大きく増加 ▲公民館利用率は減少傾向が継続 ▲自治会加入率は減少傾向が継続、直近は4割以下まで減少</p>

評価のまとめ
<p><③-1 公共交通> 公共交通の利便性向上に向けて、継続的に取組が進められている一方、バスの運転手不足等により、公共交通ネットワークの維持がさらに困難になりつつあることから、公共交通事業者との連携強化や新たな技術の活用、シェアサイクル等の他のモビリティとの組み合わせ等により、継続的に公共交通ネットワークの維持、充実にに向けた取組を推進することが求められている。</p> <p><③-2 にぎわい・活力> 市内全体的に昼夜間人口比率がやや低い水準で推移しており、加えて小売吸引力指数は減少傾向で周辺都市のうち最下位となっており、買い物客が市外に流出している状況にある。また、商業・工業の事業所数・従業者数は減少傾向が継続しており都市の活力が低下している。市民の産業活性化に対する需要が高まっていることから、産業振興に関する取組の強化が求められている。</p> <p><③-3 地域コミュニティ> NPO などの市民活動団体は増加している一方で、自治会加入率の低下や公民館利用率の減少等の傾向にあり、市民間のつながりの強化を推進する取組が求められている。</p>

④ 基本概念「自然・環境に恵まれたまち」に対する評価

現行計画の基本概念に対して「都市マスで取組むこと」
<p><④-1 自然環境> 身近な自然にふれあえる場や生物多様性の確保、美しい景観の保全と創出を図るため、黒目川などの河川、斜面林などの緑地、農地など、都市に残された貴重な自然環境の保全に努める。</p> <p><④-2 施設の緑化、エネルギー> また、市民と行政の協働により街路樹など公共施設の緑の良好な維持管理、民有地の緑化の促進やクリーンエネルギーの活用に取り組む。</p>

「都市マスで取組むこと」に関連する評価事項（○：プラス評価の事項、▲：今後留意すべき事項）
<p><④-1 自然環境> ○市内緑被率は増加傾向 ○生産緑地地区の面積は増加傾向、市民農園数も増加傾向 ▲農地面積及び農業就業人口は減少傾向 ○荒川近郊緑地保全地域の面積や河川沿いの景観重点地区の延長の拡大 ○河川沿いの市民ボランティア団体の増加 ○市全般の取組に対して、「環境」「緑・景観・環境共生」は重要度と満足度を共に高く評価 ○住宅用地への農地転用件数と面積はともに改定時をピークに減少 ○自然環境について、「現在のまま保全する」と思う市民の割合は継続増加</p> <p><④-2 施設の緑化、エネルギー> ▲公園面積は増加し続けている一方、一人当たりの公園面積は横ばい推移しており、また将来人口が増加すると見込まれ、公園の充実が懸念 ○公園、児童遊園地やシンボルロードなどの整備は継続的に進められ、市内の緑の資源を計画的に創出・保全している ○温室効果ガスの排出量は減少傾向にあり、埼玉県平均値より下回る ▲環境保全に関する市民アンケートによると、市が優先すべき環境保全に関する取組は「道路環境の整備」 ○交通環境の改善に向けて、街路樹等の施設の維持管理に取り組んでいる ○民間による開発が進む際に、市内緑化率の向上に向けて各種都市計画制度を活用している ○自然環境を保全するために、創エネ・省エネなどの設備を導入推進</p>

評価のまとめ
<p><④-1 自然環境> 市内の自然環境の維持・向上に向けた取り組みが進められている一方で、農地や農業の従業者数は減少傾向にある。市内の緑や河川、農地等の自然環境の保全・活用に対する市民の需要は高まっており、取組の強化が求められている。</p> <p><④-2 施設の緑化、エネルギー> 市内の公園は個所数と面積は増加傾向にある一方、一人当たりの公園面積は横ばいで推移しており、将来的に人口増加が見込まれている中で、拡大している人口規模に対応できるように、計画的な公園整備が求められている。 緑化の推進や創エネ・省エネなどの取組により、市の温室効果ガスの排出量は減少傾向にある。一方で、環境保全の観点から「道路環境の整備」に対する市民の需要が高く、取組の強化が求められている。</p>

2. 朝霞市の取り巻く社会動向

○20年後の将来像の検討に向けて考慮すべきこととして、朝霞市の取り巻く社会動向を以下に整理した。(総合計画側と連携)

① 人口減少と高齢化の進行

- ・朝霞市の将来見通し（人口及び高齢化）
- ・人口減少と高齢化の進行により、労働力人口等の減少などにつながり経済の停滞を招くだけでなく、社会保障費の増加等により地方自治体など公共機関の財政逼迫を招く
- ・コミュニティの担い手の減少につながり地域社会の機能低下を招く

② コロナを契機とした社会変革の進展

- ・コロナを契機として人の働き方や日常的な行動などのライフスタイルに大きな影響を及ぼした
- ・ヒトやモノ等の流れが大きく変化し、その結果、人々の居住地選定や企業の立地選定の自由度が増し、都市部から地方への人の移住や企業の移転もみられる

③ 人生100年時代の到来とQOL（生活の質）の重視

- ・長い人生をより充実したものにするため、子どもから高齢者まで全ての国民に活躍の場があり、全ての人が元気に活躍し続けられる社会、安心して暮らすことのできる社会をつくることが重要
- ・QOL（生活の質）を重視する観点から、特に、長い人生を健やかに過ごすための健康づくりや、就労や地域活動への参加など、社会への参画促進に向けた取組が求められている

④ 既存のモビリティの進化や新たなモビリティの創出など移動手段の多様化

- ・自動車の自動運転など既存のモビリティの進化している
- ・シェアサイクルや電動キックボード、電動車いすなど新たな移動手段が生み出されている

⑤ 社会的包摂と多様性の尊重

- ・誰もがその人らしく活躍できる社会の実現に向け、国や地方自治体だけでなく、事業者、地域社会、国民一人ひとりに至るまで、様々な場面における取組が求められている

⑥ 安全・安心な暮らしに対する意識の高まり

- ・地震災害、風水害といった自然災害に見舞われ、安全・安心な暮らしに対する人々の意識が高まっている
- ・子どもや高齢者が被害者となる痛ましい事件・事故が引き続き発生しており、安全・安心なまちづくりへの関心が高まっている

⑦ 持続可能な社会の構築に向けた取組の進展

- ・地球規模での大規模な気候変動は、自然災害の激甚化、人々の生活環境の悪化、生物多様性の喪失など世界各地で引き起こしており、気候変動に対する注力が求められている

⑧ DX（デジタル・トランスフォーメーション）の進展

- ・DXとは、「ICTの浸透が人々の生活をあらゆる面でより良い方向に変化させること」とされており、世界各国において国を挙げた取組が推進されており、社会経済システム全体から人々の日常生活全般に至るまで、大きな変革が生じている
- ・国は、ICTを活用して社会課題の解決や地方の魅力向上を図ることを示している

3. 朝霞市が目指す将来像

(1) 上位計画における位置づけ

<整理する上位計画>

- ① 朝霞都市計画 都市計画区域の整備、開発及び保全の方針 (R4.9)
- ② 次期総合計画

※第7回総合策定委員会では、課題認識の整理はされていたが、総合計画におけるまちづくりの方針は示されていない。方針はいつ頃出てくる予定か。

※近年策定した関連計画

- ・朝霞市立地適正化計画 (R5.3)
- ・朝霞市地域公共交通計画 (R3.2) 等

(2) 将来のまちづくりに対する市民意向

<市民意向を整理する資料>

- ③ 総合計画アンケート
- ④ 都市マスアンケート
- ⑤ まちづくりサロン (全5回)

(3) 20年後を見据えた朝霞市の将来像と将来都市構造

○将来像

- ・現行計画と同様、次期総合計画の将来像と整合を図る

<将来像>

みんなでつくる ○○○○○ 朝霞

<将来像実現のための基本方向>

- だれもが安全に、安心して暮らせるまち
- だれもが自分らしく、学び育ち、心地よく暮らせるまち
- だれもが快適に暮らせる、にぎわいのあるまち

<将来像実現のための共通理念>

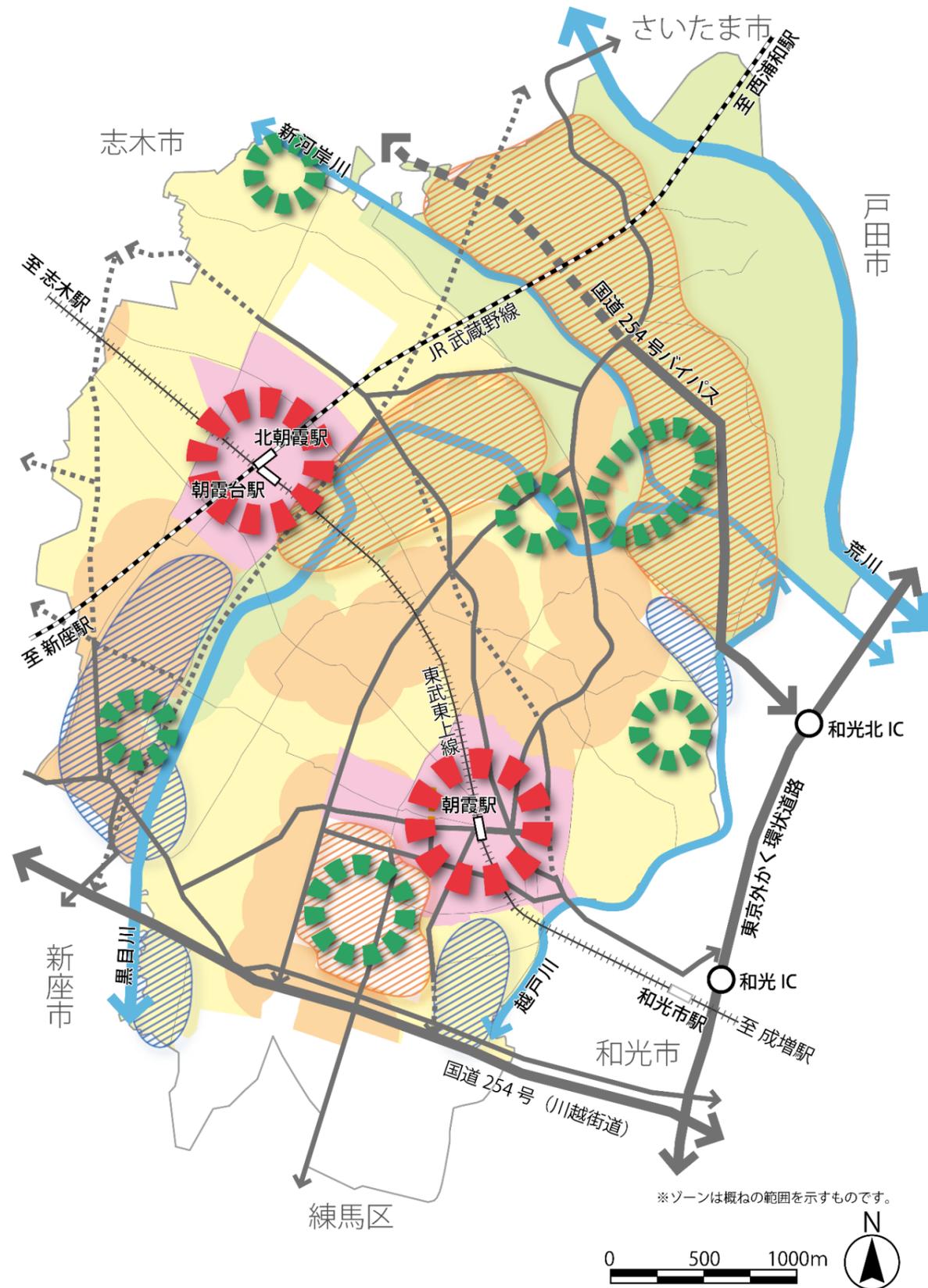
- 主体的に参画し、誇りをもってまちをつくる
- 多様を尊重し、認め合い助け合ってまちをつくる
- 連携と創意工夫によって、持続可能なまちをつくる

令和6年10月23日
第8回総合計画審議会資料より

○将来都市構造図（今後テーマ別方針図の検討を踏まえ、改めて将来都市構造図として何を表現するかを議論予定）

・近年策定した立地適正化計画等における都市づくりの考え方等を踏まえ、将来都市構造図を以下のとおり更新した。

※将来都市構造図では、都市構造のわかりやすさの観点から拠点、軸、ゾーンの表現のみとし、現行都市マスで表現のあった「新市街化地区」等の取組の重点地区については、今後整理するテーマごとの方針図に表現する。

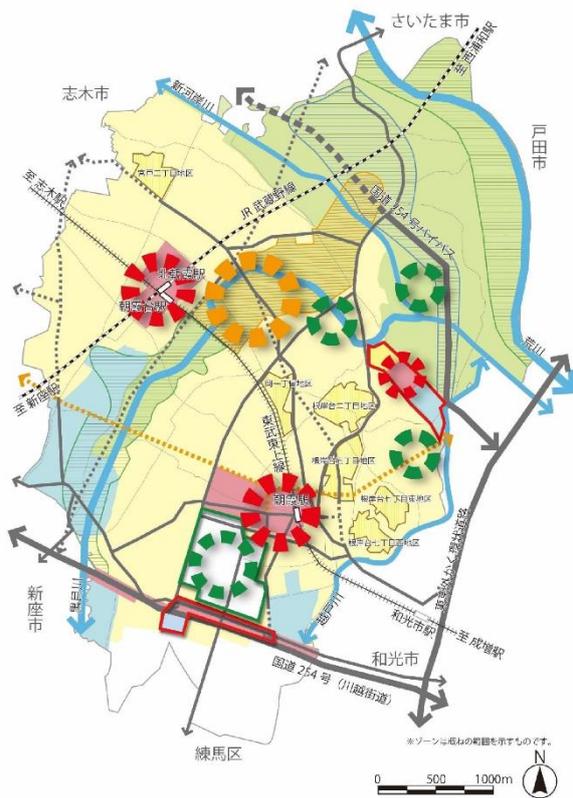


構成	種類	凡例	位置	内容
拠点	都市拠点		<ul style="list-style-type: none"> 東武東上線朝霞駅周辺 JR 武蔵野線北朝霞駅・東武東上線朝霞台駅周辺 	本市の中心的な拠点及び玄関口として商業・業務・行政サービス等の都市機能の集積を図ります
	水と緑の拠点		<ul style="list-style-type: none"> 基地跡地周辺 朝霞調節池・わくわく田島緑地周辺 城山公園 郷戸特別緑地保全地区周辺 宮戸特別緑地保全地区周辺 島の上公園 	豊かな自然・環境の拠点となるまとまった緑地を保全します
都市軸	鉄道		<ul style="list-style-type: none"> JR 武蔵野線 東武東上線 	近隣都市との広域交通ネットワークを形成し、地域間交流を促進します
	道路（国道）			
	整備済区間		<ul style="list-style-type: none"> 国道254号、国道254号バイパス（整備済区間） 	
	未整備区間		<ul style="list-style-type: none"> 国道254号バイパス（未整備区間） 	
地域交通軸	道路（県道・主要生活道路・都市計画道路）			広域交通軸を補完し、市内の各拠点等を結ぶ地域交通ネットワークを形成します
	整備済区間		<ul style="list-style-type: none"> 整備済区間 	
	未整備区間		<ul style="list-style-type: none"> 未整備区間 	
水と緑の軸			<ul style="list-style-type: none"> 荒川、新河岸川、黒目川、越戸川 	河川とその周辺の斜面林や農地と一体となり、自然環境を保全しながら、身近に自然とふれあえる場の創出を図ります
ゾーン	歩いて暮らせる駅ちかゾーン		<ul style="list-style-type: none"> 駅の至近であり、様々な都市機能が集積し、日常生活や交通の利便性が高く、徒歩圏内で生活可能なゾーン 	駅周辺に都市機能の集積を図るとともに、駅ちかの通勤や買物等の利便性に魅力を感じる多様な世代の居住の誘導を図ります
	公共交通らくらく移動ゾーン		<ul style="list-style-type: none"> 幹線道路となる道路網に近く、バスや自転車で駅の近くまで楽に移動でき、通勤・通学・買物等に便利である一方で、駅からは一定程度離れており比較的静かな生活環境も備えるゾーン 	電車やバスなど、公共交通の高い利便性が確保され、市街や都心へアクセスできる住宅市街地を形成します
	利便性と自然が調和したゆとりの暮らしゾーン		<ul style="list-style-type: none"> 中心市街地や大通りからやや離れ、閑静で武蔵野の自然も近いゾーン 	現在の市街地密度の維持を図り、市内循環バスを軸とする交通利便性を確保しつつ、自然とのバランスのとれた総合的に暮らしやすい住環境を創出します
	自然空間保全ゾーン		<ul style="list-style-type: none"> 黒目川、新河岸川周辺に広がる市街化調整区域のゾーン 	水辺空間や緑の保全と、周辺環境に調和するレクリエーション活動の場として活用を図ります
	都市機能補完ゾーン		<ul style="list-style-type: none"> 基地跡地地区地区計画エリア 医療と福祉と教育の拠点エリア 国道254号バイパス沿道エリア 	水害等に対する防災対策や豊かな自然環境との調和を考慮したうえで、公共的な機能の維持または計画的な誘導を図ります
	工業系ゾーン		<ul style="list-style-type: none"> 工業系用途地域の範囲 	産業の経済活動の場として適正な土地利用を図ります

(参考) 現行都市マスの将来都市構造からの変更点

構成	種類	変更点
拠点	(追加) 水と緑の拠点	・庁内調整を踏まえ、「わくわく田島緑地周辺」「宮戸特別緑地保全地区」「島の上公園」を追加
	(削除) 地域拠点	・根岸台3丁目に位置づけられていた地域拠点の位置づけを変更
	(削除) 医療と福祉の拠点	・立地適正化計画における「都市機能補完ゾーン」として、ゾーンの位置づけに変更
地区	(削除) 新たな拠点形成地区	・立地適正化計画における「都市機能補完ゾーン」として、ゾーンの位置づけに変更
	(削除) まちづくり重点地区	・国道254号沿道や根岸台3丁目の取組状況を踏まえ、位置づけを変更
	(削除) 新市街地地区	・将来都市構造図ではなく、暮らしのテーマにおける方針図に反映する
都市軸	(更新) 道路の整備状況	・道路の整備状況を踏まえ、道路の表示を更新
ゾーン	(新規) 歩いて暮らせる駅近ゾーン	・立地適正化計画における居住誘導区域の性格に応じたゾーン設定を将来都市構造に反映
	(新規) 公共交通らくらく移動ゾーン	
	(新規) 利便性と自然が調和したゆとりの暮らしゾーン	
	(新規) 都市機能補完ゾーン	・立地適正化計画における「都市機能補完ゾーン」の位置づけを反映
	(削除) 商業系ゾーン	・立地適正化計画における居住誘導区域の性格に応じたゾーン設定に変更
	(削除) 住居ゾーン	
	(削除) 緑地景観保全ゾーン	・将来都市構造図ではなく、安らぎ心地よさのテーマの方針図に反映する
	(削除) 自然と調和のとれたまちづくりゾーン	
(削除) 自然と共存する公共公益施設等ゾーン	・立地適正化計画における「都市機能補完ゾーン」の位置づけに表現を変更	

■ 現行都市マスの将来都市構造図



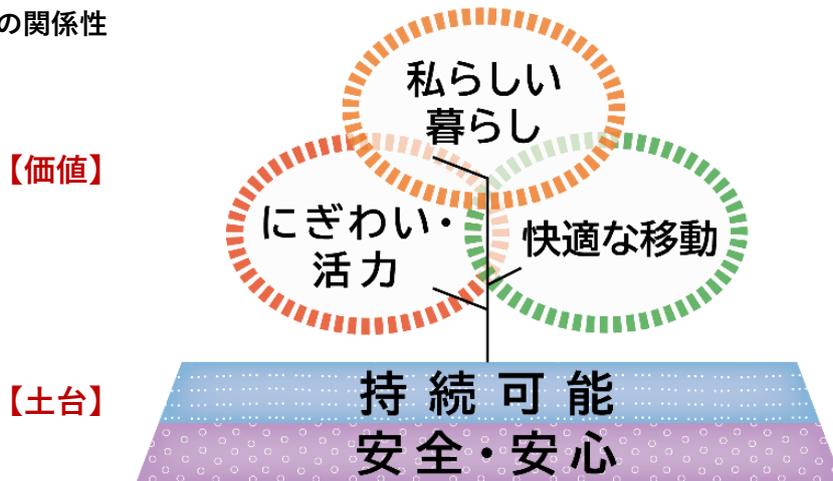
構成	種類	凡例	位置	内容
拠点	都市拠点・地域拠点		(都市拠点) ・新市街地周辺 ・JR武蔵野線北調駅・東武東上線調台駅周辺 (地域拠点) ・根岸台3丁目の大規模工場跡地周辺	(都市拠点) ・本市の中心的な拠点及び玄関口として商業・業務・行政サービス等の都市機能の集積を図ります (地域拠点) ・根岸台3丁目の大規模工場跡地周辺は、都市拠点とのアクセスが容易ではない市北東部(主に東部・内陸地域)の地域生活拠点として商業機能の集積を図ります
	医療と福祉の拠点		・健康推進センター、総合福祉センター、東大大学などの公共公益施設が立地する地区	調台1区、市街地の中心部に立地する公共施設・福祉・教育施設の集積的立地を図ります
	水と緑の拠点		・基地跡地周辺 ・朝陽緑地 ・島上緑地 ・根岸特別緑地保全地区周辺	豊かな自然・環境の拠点となるまとった緑地を保全します
地区	新たな拠点形成地区		・基地跡地	新たな市のシンボルとして、周辺エリアと連携しながら、緑地の保全とともに、多様な用途機能と調和した土地利用により、地域の交流と活性化を図ります
	まちづくり重点地区		・朝陽緑地(学芸地区)周辺の国道254号沿道地区 ・根岸台3丁目の大規模工場跡地周辺及び大宮市内の東地区の一部	大規模開発が可能な地区において、交通の利便性などの立地を生かして、民間活用による地域の経済と雇用を支えるまちづくりに重点的に取り組めます
	新市街地地区		・住居空間形成地区 ・根岸台5丁目住居空間形成地区	新たな市街地地区に導入した地区などで、都市機能がより集積する地域特性を生かした良好な市街地形成を図ります
都市軸	鉄道		・JR武蔵野線 ・東武東上線	近隣都市との広域交通ネットワークを形成し、地域間の交流を図ります
	道路(国道)		・国道254号、国道254号バイパス(整備済地区)	
	道路(県道・主要生活道路・都市計画道路)		・整備済地区 ・未整備地区 ・未整備地区 ・見直し検討地区	
	水と緑の軸		・市川、朝陽川、調台川、越前川	
ゾーン	商業系ゾーン		・商業系用途形成ゾーン	経済活動の集積地として適した土地利用を図ります
	工業系ゾーン		・工業系用途形成ゾーン	経済活動の集積地として適した土地利用を図ります
	住居系ゾーン		・住居系用途形成ゾーン	住居系用途形成を図ります
	自然空間保全ゾーン		・黒目川、朝陽川周辺に広がる市街地調整区域	水辺空間や緑の保全と、防災機能に調和するレクリエーション活動の場として活用を図ります
	自然と共存する公共公益施設等ゾーン		・黒目川、朝陽川周辺に広がる市街地調整区域、地元の公共施設が立地する地区	良好な自然環境を保全しながら、地元の公共施設機能の立地を図ります
自然と調和のとれたまちづくりゾーン		・内陸地域の一部及び国道254号バイパス沿道	自然環境を保全しながら、既存の集積地を維持向上に努めるとともに、広域交通軸を生かした適正な土地利用を図ります	

(4) 将来像の実現に向けて取り組むべきテーマ

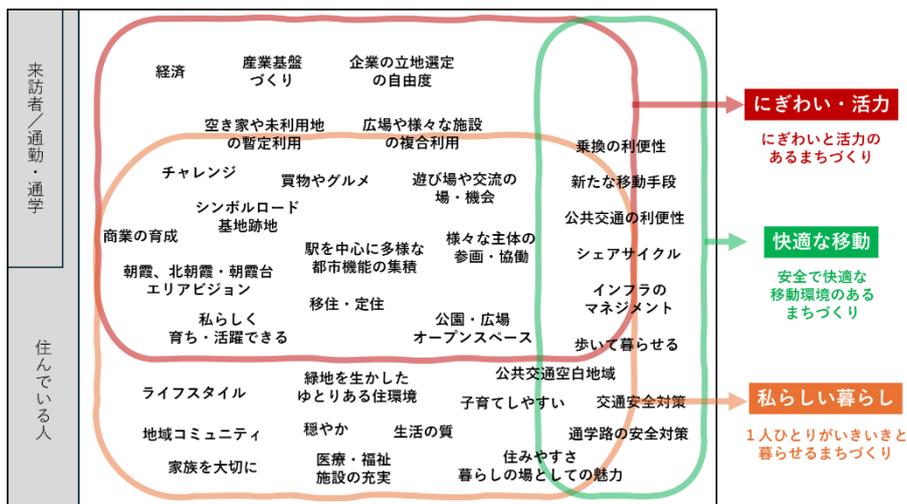
前述で整理した上位計画における位置づけや、将来のまちづくりに対する市民意向、本市を取り巻く社会動向等の整理から、今後のまちづくりを検討する上でのキーワードを抽出し、そのキーワードを「来訪者／通勤・通学、住んでいる人、全体」のターゲットに応じて配置すると、大きく5つのグループに括ることができる。この5つのまとまりを将来像の実現に向けて取り組むべきまちづくりのテーマとして設定する。

上記の5つのテーマは、これからのまちづくりを考える上で対応しなければいけないものと、朝霞の価値を高めるものに分けられる。そのため、以下の5つのテーマの関係性では、対応しなければいけない2つのテーマ「持続可能」と「安全・安心」を土台として、朝霞市の価値を高める3つのテーマ「私らしい暮らし」、「にぎわい・活力」、「快適な移動」を育てていくことを表現している。

■ 5つのテーマの関係性



<朝霞の価値を高めるキーワード>



<都市基盤の土台となるキーワード>

